

【研究主題】 新体カテストを踏まえた体育科授業の充実

【副題】 分析結果を踏まえたベースボール型運動の充実

【学校名】 湖南省立石部南小学校

1 本校の概要

本校は、湖南省の南部に位置し、大半が新しく開発された住宅地である。また、近江学園から通学する児童や外国籍児童も多く、児童の家庭環境は実に多様である。そのため、学習や運動面において、特別な支援を要する児童が多い。特に、運動面においては、投の動きに課題があり、二極化が顕著であることから、運動遊びの経験が薄いことがうかがえる。

2 取り組んだ内容

(1) 新体カテストの分析

毎年度全学年で実施している新体カテストの結果を踏まえ、本校の強みと弱みを分析した。

分析結果は、以下のとおりである。

「50m走」および「長座体前屈」は、全国平均値を下回るものの、同等の数値であり、本校児童が走る運動を得意とし、柔軟性があると考えられる。「反復横跳び」では県の平均値を下回るものの、大きな差は見られない。「ソフトボール投げ」や「20mシャトルラン」では、学年が上がるにつれ、全国平均値との差が大きくなっている。また、男女の平均値の差が大きく、上学年では投げる力や持久力の男女差が大きくなっている。

「投げる運動」をする機会の減少や、「物を投げる経験」の少なさが原因の一因であり、運動の二極化が進んでいると考える。

(2) 分析結果を踏まえたベースボール型運動の充実

分析結果から、特に投の動きに課題があったため、投げる楽しさや必要性が感じられるような学習の充実を図ることが重要だと考えた。そこで、ボール運動の中でも投げる楽しさや必要性を味わいやすいベースボール型運動を行うことで、児童が楽しみながら取り組めることをねらって学習を構想した。

投げたり捕ったりする経験が少ない児童がボール運動に慣れ親しむために、ウレタンボールとウレタンバットを採用した。当たっても痛くないボールを使用することで、ボールに対する恐怖心が軽減し、ボールを投げたり捕ったりすることが比較的容易になった。また、打つことが苦手な児童でも、ボールを飛ばして誰もが得点できるような教具を採用し、ルールを工夫す

ることで、ベースボール型運動の楽しさに誘い込まれた。しかし、単元序盤では「ボールが遠くに飛んでいくのが面白い。」「得点がたくさん取れて嬉しい。」など、守備の楽しさよりも打ったり得点したりする楽しさを感じている児童が多いことが振り返りカードの記述から明らかになった。

単元中盤では、ボール運動の楽しさに引き込まれた児童のアイデアから、誰もが楽しくゲームに参加するために守備のルールを変更した。このルールの変更によって、ボールを投げた方がアウトにしやすくなることを理解した児童は、たくさん得点を取ることと同じくらいにボールを投げたり捕ったりすることが必要であることに気付いた。

3 活動の成果

児童のボールに対する恐怖心を軽減し、誰もが楽しめるルールに変更することで、打球方向に素早く移動したり、ボールを投げたり捕ったりする技能を高めることができた。また、ボールを投げたり捕ったりすることの楽しさや必要性を感じることで、チームの課題に応じて守備練習をするチームも現れた。自分たちが選んだ守備の作戦が上手く遂行できたり、練習した成果がゲームで発揮されたりすると、「ナイスプレー」と声を掛け合ったり、ハイタッチをしたりするなど、単元序盤には見られなかった姿が見られるようになった。

また、個人で打つことに対して楽しさを感じていた児童は、学習が進むにつれ、「仲間が良いプレーをして嬉しい。」「作戦が成功したので良かった。」など、仲間のプレーやチームの作戦に対しても振り返ることができるようになり、チームへの所属感や貢献感を高めることができた。

